

2024.3  
MARCH  
No.22

高知大学医学部附属病院広報誌  
隔月刊【おらんくの大学病院】

# RANK

RANK

2024.3 MARCH No.22

高知大学医学部附属病院広報誌  
隔月刊【おらんくの大学病院】

【発行日】2024年3月20日

【発行】高知大学医学部附属病院 広報係

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 Tel.088-880-2723

新しい治療法に期待を膨らませる日々！  
私のON/OFF

脳神経内科学講座 教授  
松下 拓也

  
高知大学医学部附属病院



<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/index.html>



＼広報担当者のつぶやき／

まず、この場をお借りしまして、本撮影に全面的にご協力いただきました梶原町様にお礼を申し上げます。広報担当者として、読書好きの教員が表紙を飾ることもあり『高知が誇る図書館で！』と意気込んで調整に臨みましたが、こちらの要望以上に融通を利かせていただき、素敵な表紙となりました。

折角の梶原町ということで、図書館以外でも写真撮影を行ったことで、病院広報誌であることを忘れてしまいそうな作りとなっておりますが、お手に取ってご一読いただけますと幸いです。

撮影協力／梶原町立図書館(雲の上の図書館)

学生時代から、神経系の医学を追求したいという思いが強くて

# 新しい治療法に期待を膨らませる日々!

2013年に高知大学が脳神経内科学講座を立ち上げたタイミングで、九州大学から初代教授となる古谷博和教授を迎え入れた。それから10年。その後継として、松下拓也教授が着任し1年が経過した。今回は、高知県における現在の脳神経内科のあり方について語っていただく。



現在の日本における脳神経系疾患を抱えた患者さんの数はどうでしょう。また、脳神経内科を受診される方が多いのは、どの年代ですか。

患者数は着実に増加の傾向にあり

から、医師は日々さまざまな知識を学び会得していかねばなりません。ただ、これまでは診断がついてもその治療法が不明なものも多く、脳神経内科は「治らない科」と揶揄されることも多かったのです。しかし、私が医師になってからの20年間だけでも、神経疾患のあらゆる分野で病態の理解は大きく進歩しました。なぜそのような神経障害が起こるのかについてはかなりのことが解明されてきたのです。令和の現在は、病態解明の果実を実際の治療に応用していくまさに黎明期であり、実際に20年前には想像もつかなかった治療法が次々と臨床に活用されています。ですから、これまで治らないとされてきた病気にも次への期待が生まれ、我々のモチベーションも高まってきているところなんです。

多くの神経疾患の発症には、老化、という誰にも避けられない生理現象と密接な関わりがあることが明らかになってきています。パーキンソン病やアルツハイマー病といった病気は高齢になるほど発症するリスクが高くなります。世界的に高齢化は進んでおり、特にこの高知県ではその最先端を走っていますから脳神経内科を訪れる患者さんは増加していますね。受診年代としては60代後半から70代の方々が中心です。

はい。それらは国ごとの死生観や医療システムに依存して大きく違っています。たとえばアメリカでは医療費も高額なため、運動や摂食、呼吸機能が

国によって、病気の捉え方や治療法に違いがありますか。

ケアが不可欠です。脳神経内科医はこのようなチームの一員として患者さんの診療にあたり、さまざまなサービスマ提供のハブとして機能することが期待されています。先生がお若い頃と現在では、治療に対する考え方が変化していますか。以前は「治す」ことに対し、根本原因を突き止め病気を取り除く、という考え方で治療にあたっていました。が、徐々に、患者さんの病状を緩和しつつ日常生活を手助けしていくのが、この領域における医師の役割ではないか、と思うようになってきました。全身の力が徐々に入らなくなり、呼吸も難しくなるALS(筋萎縮性側索硬化症)という病気があります。その病気の進行を止めることはできなくても、その時々の状況において患者さんが「こうしたい」という思いは必ずあります。ご本人がどのような人生を生きたいのかに寄り添い、症状を緩和するための治療法やそれを支える制度についてちゃんと伝えるような心がけています。

この症状ならやっぱり松下先生へ、と自信を持って勧めてもらえる医師を生涯めざし続けたいと思っています。

脳神経内科を訪れる患者さんの多くは、身体の不調の中でも動作や感覚などの異常を感じて来られますから、我々医師は、まず患者さんの身体症状に耳を澄ますことが最も大切

ご自身の医師としてのポリシーなどをお聞かせください。



## 現在は脳神経内科領域の黎明期!

未知の部分が多い領域ゆえに、課題も多いでしょうね。

それはもう(笑)。この領域では、実に多彩な症状、症例が見られます。

私のON

### 脳神経内科学講座 教授 松下 拓也 (まつした たくや)

- 【経歴】
  - 2001年 九州大学医学部 卒業
  - 2005年 九州大学大学院 医学系学府機能制御医学専攻 博士後期課程
  - 2001年 九州大学病院 医員(研修医)
  - 2003年 済生会福岡総合病院 神経内科 医師
  - 2003年 九州厚生年金病院(現JCHO九州病院) 神経内科 医師
  - 2004年 麻生飯塚病院 神経内科 医師
  - 2009年 九州大学大学院 医学研究院 神経内科学 助教
  - 2009年 九州大学大学院 医学研究院寄附講座 臨床神経免疫学 准教授
  - 2012年 九州大学大学院 医学研究院神経内科学 学術研究員
  - 2014年 九州大学大学院 医学研究院寄附講座 神経治療学 准教授
  - 2015年 九州大学病院 脳神経内科 講師
  - 2022年 高知大学医学部 脳神経内科学 教授 現在に至る
- 【専門分野】
  - 神経内科一般、神経免疫疾患
- 【専門医等資格】
  - 日本神経学会神経内科指導医、日本神経学会神経内科専門医、日本老年医学会認定老年病専門医

語りきれない高知の魅力を語ってみたい!

休日には、本を開いて束の間、自分を忘れていきます。

私のOFF



九州から高知に連れて来て間もなくご自宅を建てられたと伺いましたが、高知永住を決意された決め手は何だったのでしょうか。

一番の理由は、私が九州時代とてもお世話になった前任教授の古谷先生も、九州大学から高知に移住された経緯があったからです。私自身が香川県生まれなので、少しの違和感もなかったし、逆にこちらに来るのを楽しみにしていました。



高知県は同じ四国でも日照時間が長く晴れ間も多いし、野菜や柑橘類などが驚くほど安くて美味しいですね。だから、追手筋の日曜市を歩くのも自分をリフレッシュさせる一つになっています。高知の魅力は語ればきりがないんですが、自宅を構えた高知市は街の造りがぎゅっとコンパクトにまとまっているので、大抵の目的地へのアクセスが自転車で可能、もう本当に便利で(笑)。



どの店にも出ていて、飽きることがありません。

### 趣味は無いけどつまらない時間にならない

たくさんお褒めいただいたてありがとうございます。ここからは、そんな先生のプライベート時間の過ごし方などを。

実は私、胸を張って趣味と呼べるものがなくて。ただ、空いた時間をつまらなくはしたくないと(笑)。本が好きなので休日などはオーディオビジュアルに行きます。一年前高知に引越した際、勇気を出して大量の本を処分したので、契機に最近では電子書籍に移行していますが、やっぱり手に取った感触や重さが恋しくなるのか本に囲まれている感じが、最近では言語学やサイエンス系の専門書もヒットでした。専門外の分野にはいろいろな発見があって、時間も忘れて夢中になります。

県立美術館でも風変わったライオンナップが上演されたりするので、

チェックしています(笑)。歴史的なものから現代劇まで拝観しながら(これを考えた芸員さんはどんな人だろう)と想像したりするのが、また楽しくもあります。

趣味が無いどころか、けっこう充実した時間をお過ごしかと(笑)。休日をお子さんと楽しめたりすることもありますが。

あ、それはあります(笑)。仁淀川をふらっと散歩して風に吹かれるだけでも気持ちがいいし、少し前には宇佐のしおかぜ公園で、岸壁から子どもと釣り糸を垂らしてみたり。高知って自然には不自由しませんから、子どもたちも大喜びなんです。こういった場所が県内全域にあることでとても癒されています。

高知大学に赴任されてからの1年間で、地域性や人間性の双方から、高知に慣れ親しんでいただけたようですね。

本当のことを言いますと、高知のイメージといえば、酒が強く少々荒々しい県民性で「自由は土佐の山間より」の自由民権運動発祥の地であるこ

とから、議論好きな人ばかりなのだろうと思つてやってきました。ところが男性はむしろ大人しい人が多く、女性はさすがに「はちきんの国」だけあって、その通りでした(笑)。

### 「都会じゃないと研修できない」というのはナンセンス

最後に、脳神経分野のこれからを拓いていく若い医師たちへのメッセージをください。

脳神経内科診療の特徴として、患者さんと医師が1対1で向き合うことだけで、その身体所見から多くを学ぶことができます。そういったことから、場所さえあればできる科なので、「都会の大病院でない」と研修できない」というのはナンセンスです。

この高知県は全国的にも超高齢化が進んでいることから、高頻度で診療の機会があり、学生にとっての学びの環境としても恵まれています。大きな期待を持ってこちらのドアを叩いてくれるあなたの訪問を心待ちにしています。



- ① 神幸橋
- ② 三嶋神社境内
- ③ 坂本龍馬脱藩の道
- ④ ゆすはら座

